

遊離

私が私であること
その奇跡的一致は
何と不思議なことだろう

私が歩み寄ってくる
ベッドの傍らへと
哀れむような眼差しを向けて

ああ、それほどに
私は哀れだろうか
そんな目で見るとはやめてほしい

私を見下ろす私に
どんな生があるというのだ
どんな^{こころ}感情があるというのだ

(君にだってありはすまい・・・)

私が私であること
その奇跡は
何ともろいものだろう

(1999.7.8)